令和６年３月
出雲市グリーンなぶどう栽培体系実証協議会
ＪＡ しまね 出雲ぶどう部会
ＪＡ しまね 出雲地区本部

令和6年度デラウエア普通加温栽培暦　ヒートポンプ及び自動換気装置

月	旬	生育状況	主要管理	温度管理基準 日没～22時 ℃	22時～3時 ℃	3時～日出 ℃	昼温 ℃	換気目標 ℃	水管理基準 湿度 %	かん水	病害虫
6	中 下	■貯蔵養分蓄積期	■礼肥（収穫末期） ■間縮伐 ※収穫直後に害虫防除	外気温					-	乾燥しないよう定期的にかん水	**収穫後** ハダニ類 アザミウマ類 コナカイガラムシ類 チャノコカクモンハマキ 褐斑病 さび病 べと病
7	下		■ビニール除去（梅雨明け後）								
8	上		■二次伸長枝の摘芯								
	下										ブドウトラカミキリ
9			■ハウス・棚の補修（台風対策） ■加温機の掃除・補修								
10	上										ブドウトラカミキリ
	下	■落葉期	■土壌改良								
11		■休眠期	■整枝剪定　樹勢にあわせた芽数とする（8,000～10,000芽） ■棚の空いている部分への補植（３月定植）								
12	中 下		■休眠打破（１回処理の場合） ■元肥								
1	中		■ビニール被覆 ■芽出し肥 （被覆（無加温期間）直前～直後）	無加温期間				40	80以上	被覆直後 ３０mm	**発芽前**
2	上		■加温開始	１５ ↓ １８				33		５～７日おき 15～20㎜	**１月下旬～２月上旬** ハマキムシ類
	中	■発芽期		18	15	15	20	30	50～60		ジベレリン１回処理前 コナカイガラムシ類
	下	■新梢伸長期	■芽かき【新梢本数：8,000本/10a】								
3	上		■ジベレリン１回処理 ■摘心	15	13	10	15	28	80～90		**開花直前～始期まで** 灰色かび病 アザミウマ類 コナカイガラムシ類
	下										
4	上	■開花期	■ビニールマルチ ■内張りビニール除去 ■追肥（70%満開時）						50～60	散水程度 （土壌を乾燥させないこと）	
	中	■果粒肥大期	■粗摘房・摘粒 ■ジベレリン２回目処理 ■ビニールマルチ除去（ジベレリン２回処理の翌日以降）	20	18	18	20			５～７日おき 20～30㎜ （晴天日）	**結実後からジベレリン２回目処理前まで** アザミウマ類 ヨコバイ ハダニ類 コナカイガラムシ類
	下		■摘心・副梢除去								
5	上 中	■着色期	■谷換気 ■ツマ面、サイド開放（夜温１５℃以上）								
6	上	■成熟期	■収穫	18	18	15	20				**農薬散布自粛期間**

右欄のEOD加温を実施

◎化石燃料の使用量低減に向け、ジベレリン2回目処理後EOD加温を積極的に行いましょう

EOD加温	16：30～18：30	18：30～6：00	6：00～16：30
第２回ジベ処理の翌日以降～加温終了まで	２５℃	１３℃	２０℃

◎ヒートポンプ及び自動換気装置を活用した場合の温度管理基準

温度管理基準（℃） 日没～２２時	２２時～３時	３時～日出	日出～日没	換気目標	生育ステージ	月	旬	自動換気装置温度設定（℃） 内張り	外張り
無加温期間				40		1	中	24	23
加温開始１５→１８				33			上		
18	15	15	20	30	発芽期	2	中		
							下		
15	13	10	15	28	新梢伸長期	3	上		
							下		
20	18	18	20		開花期	4	上		
					果粒肥大期		中		
							下		
18	18	15	20		着色期	5	上		
							中		
					成熟期	6	上		

◎施肥目安

	総量	土壌改良(kg) 10 月 中・下	元肥(kg) 被覆(無加温期間)の1ヶ月前	芽出し肥(kg) 被覆(無加温期間)前後	追肥(kg) 満開時	礼肥(kg) 収穫末期	9月	成分量(kg) 窒素	燐酸	加里
堆肥	3,000	3,000								
うペアミノ866	60		60					4.8	3.6	3.6
硫安〔　〕粘質土壌の場合	50〔40〕			20〔15〕	15〔15〕	15〔10〕		10.5（8.4）		
なたね油粕	100	100						5	2	1
醗酵ケイフン	40						40	1	2	1
苦土石灰	60	60								

土壌改良等に関連する注意点
◎毎年土壌分析を実施し、土壌状態を把握する。
◎超早期・早期加温では、満開時以降の追肥を生育に合わせて回数を増やす。
◎無加温では、裂果防止のため満開時以降の追肥は控えめにする。
◎生育期間中に、苦土欠症状が発生すれば、直ちに硫酸マグネシウムを10a当り20㎏程度施用する。
◎カリ欠症状の見られた園では、礼肥に硫酸加里を20㎏程度施用する。
◎早期落葉のひどい園と、遅伸びをする園では礼肥を控える(秋伸びした枝は摘心する)。
◎ゴマシオ症発生園では、アルカリ性肥料は控えるとともにマンガン肥料(マンキチ粒状30号)を土壌改良時に10a当り10㎏施用する。
◎年次計画で深耕による堆肥投入を行い、健全でバランスのとれた樹づくりをする。